

30年後にむけた日本・わが国の国家ビジョン 概要(中間報告)

○歴史（開国以降）：諸外国から圧力に屈せず、独立国として目覚しい発展をなした国民性

第一パラダイム：開国、日英・日米通商条約、富国強兵、殖産興業、大正デモクラシー、帝国会議制定、日清・日露戦争、

第二パラダイム：第二次世界大戦（敗戦）、戦後復興、高度経済成長、日米構造協議、バブル崩壊、失われた10年

第三パラダイム：世界金融危機、環境問題、資源高騰、食料問題、新興国の台頭

○世界の動向

アジア：中国の脅威、大中華圏による覇権拡大。

アジア周辺の海洋治安の安定化。

韓国の世界における躍進（グローバル化）

ASEAN地域との連携、EPA等、経済連携をどこで組むか。

米国：経済関係。日米同盟50年。

アジア地域の安全保障の枠組み再考

欧州：EU内の国の統制（経済、財政力の違い、救済対応）

○国民意識

・漠然とした不安

・景気の良さを知らない若者

・世代間ギャップ、消費傾向の違い

・給与が横ばい。モチベーションが
拳がらす。・変化する（できる）ことへの期待
有り

○日本の強み・弱み

日本の強み：平和（宗教紛争、貧困、病気がない）、

国民主権、国民の同質性、

豊かな自然（四方海、肥沃な土地、）

安全を産みだす技術、基準（工業、農業）

世界2位の経済力（一定の規模がまだある）

日本の弱み：過剰なグレード（製品）、競争のない農林漁業、人口減少
人材の流動化、国内のグローバル化（言語、ビジネス、）
不安定な政治（リーダの欠如）

○30年後の仮説 海外：米国のヘゲモニーの終焉。新興国の経済活動の拡大。軍事力も拡大。多極国家の中でのパワーバランス競争

国内：人口減、GDPも横ばい（相対的下落）

○30年後の社会像

安心して暮らせる国

地域コミュニティ力、社会参画の拡大（助け合い）

孤立しない社会（孤独死）、精神的豊かさの実現

多様性が受容され、皆が輝く国

人の成長・挑戦ができる社会、柔軟なライフスタイル

格差でなく多様性を強みに。コミュニケーションバリアフリー

世界に尊敬され誇りの持てる国

自然・文化・技術力の質の高さ

創造力の高さ、ホスピタリティ、旧来からある公を重視

○教育WG 人材育成

成熟した国民、社会参加画が出来る人材

・自己の社会で果たす役割を知り実行する国民育成。
“シチズンシップ教育”や“考える授業”の導入。

多様性、個性を持った人材

・総合学習、キャリア教育の充実しつつ、多様性を受け入れる環境づくり

愛国心を持つ人材、国際的リーダーとなれる人材

・日本、海外の違いを理解し外から日本を見る視点が
必要

○産業/地方WG 産業構造、地方活性化、

産業：国をあげて安定成長を実現

海外で稼ぐ仕組みとモノづくり

・国内企業の再編・統合、日本の技術を活かすブ
ランド力とマスマーケットの把握

国内で強固な基盤づくり

・農林漁業の再生、流通改革で自給率向上

地方：地域産業のグローバル化とソーシャル
サービスの確立

○働き方WG：雇用環境、社会保障

雇用の場：“内”なる産業鍛えて“外”に出る

・モノ製造からソフト・サービスの生産。

・1次産業の自給率向上と魅力的雇用の場へ転換

人生の変化に応じた柔軟な働き方

・高齢者と女性活用は必須。潜在人材の活用。

・社会人就業活性化。転職、中途でも評価。

格差固定を解消、底上げの必要

・貧困は最低限支え、頑張る人の復活支える仕組

今後：国家ビジョンとしての柱となる項目の抽出

検討分野：国防、外交、経済活動（資本主義）、ガバナンス（民主主義、国民主権）等含む

過去

現在

30年後の日本の将来像とそれを実現するための方策